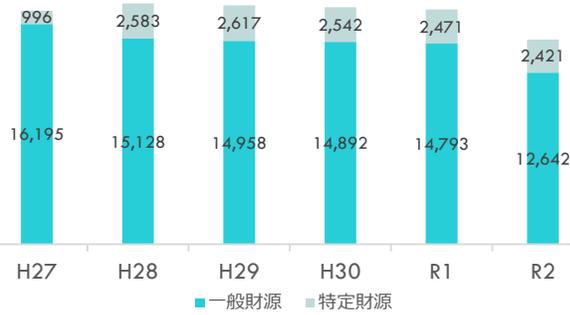
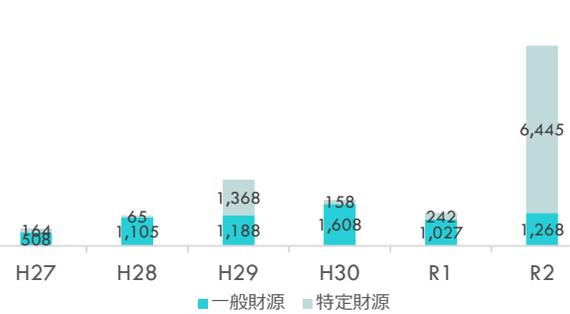


保健課、子育て支援課

経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)

なし

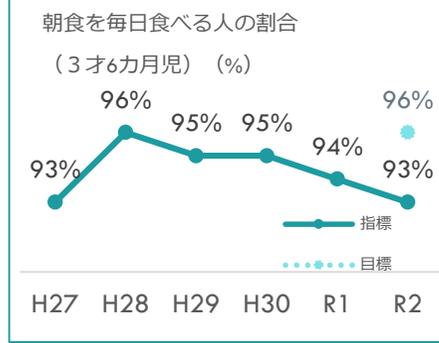
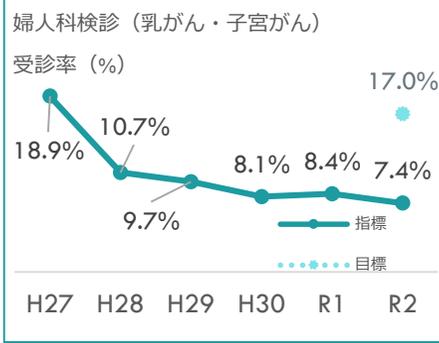
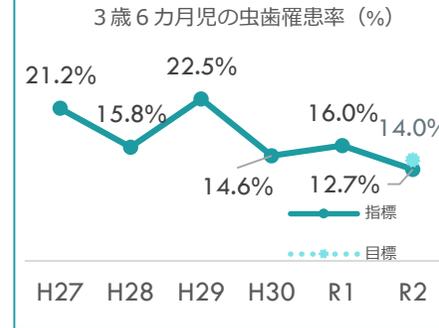
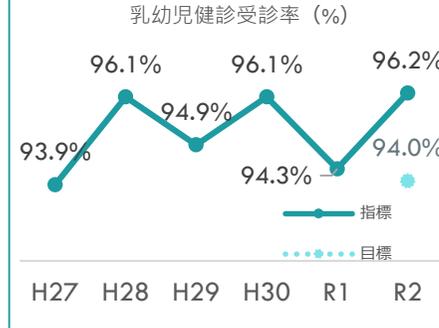
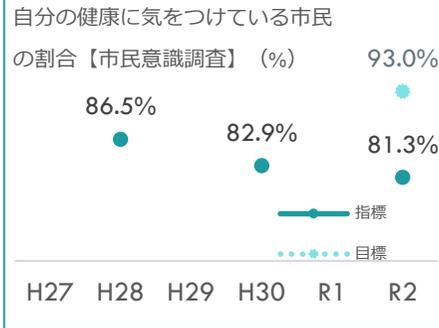


現状と課題

本市では、市民の健康寿命を延ばし、QOL（※）の向上を図るため、「第2次健康びぜん21」及び「第2次備前市食育推進計画」に基づいた保健事業を展開しています。市民が自分の暮らしている地域の健康面での課題を理解し、自らの健康への関心を高め「自分の健康は自分でつくる」ことを目指していますが、これをより多様な世代や地域の隅々まで浸透させることが必要となっています。

※QOL：Quality of Life「生活の質」と訳され、人間らしく、満足して生活しているかを評価する概念

成果指標



指標の説明・・・

「第2次健康びぜん21」及び「第2次備前市食育推進計画」で設定した「次世代」「成人期」「高齢期」という年齢による各段階と「食育」の課題から、改善が望まれる項目等を指標としています。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット(どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム(どれだけの成果が得られたか)
健康づくり・食育の推進	健康づくり推進協議会事業 健康相談・健康教育事業 栄養委員会事業	「第2次健康びせん21・食育推進計画・自殺対策計画」の進捗状況を点検し、関係機関や団体等との連携により計画が実行されるよう推進する。地区組織や職域との連携を強化し、健康教育や健康相談などさまざまな機会を捉えて健康づくりに関する普及啓発を行う。	経常的経費	102万円	83万円	健康づくり推進協議会（食育推進会議を含む）3回、37人 栄養教室の回数（終了生含む）7回、54人 栄養委員研修会の回数8回、322人 栄養委員による伝達講習会の回数55回、983人 職域への健康教育の回数3回、57人 健康相談27回、204人 健康教育40回、461人	自分の健康に気をつけている市民の割合（R2は調査無し、R1は81.4%） 生活習慣を改善する意欲なしの割合（R2特定質問票31.3%、R1は31.3%で変化なし） 運動する習慣がないの割合（R2特定質問票週2回以上運動習慣無し56.4%。R1は57%につき微減）
歯科保健の推進	乳幼児健康診査事業 健康被害予防事業	子どもの生活習慣に対する保護者の意識の底上げを行う。訪問・健診等で保護者へのアプローチを行う。	経常的経費	116万円	8万円	乳幼児健診を実施(0.4健診：11回、対象161人/受診157人・1.6健診：10回、対象190人/受診181人・2.6健診：9回、対象192人/受診182人・3.6健診：11回、対象210人/受診204人)	・虫歯罹患率は減少傾向(3歳6か月児：12.7%) ・乳幼児健診受診率(96.2%)は維持
一貫した母子保健の推進	乳幼児健康診査事業 健康被害予防事業	乳幼児期からの生活習慣病予防のために、正しい生活習慣、食生活を身につけさせる。	経常的経費	81万円	6万円	訪問、健診等で全ての保護者に朝食欠食だけでなく夕食後の飲食、遅寝等生活全体を意識したアプローチを実施。全ての健診で両親の朝食摂取状況を聞き取りを実施(100%)	・朝食を毎日食べる3歳6か月児の割合R2は93.0%、R1は93.6%で微減。・早寝(20:59までに就寝)する3歳6か月児の割合はR2は20.4%、R1は19.1%で微増。・朝食を毎日食べる3歳6か月児の母親の割合R2は89%、R1は85%で微増。・朝食を毎日食べる3歳6か月児の父親の割合R2は65.1%、R1は調査なし。
成人保健の推進	特定健診健康診査受診勧奨事業 各種検診事業	検診を受診しやすい体制づくりとして効果的な時期と場所を検討し受診勧奨を行う。	経常的経費	13万円	7万円	乳・子宮が検診のクーポン送付 R1より受診できる医療機関の拡大(赤磐市・岡山市) 検診ひろめ隊受診勧奨人数456人 広報などへお知らせを4回掲載 受診勧奨ハガキを送付(乳299人・子宮405人)	がん検診受診率(乳8.1%・子宮6.6%)は新型コロナウイルスの影響が大きく低下した。 特定健診受診率（R1は38.1%、R2は法定報告未定） 特定健診データ提供者数（R2、R1ともに73件）
精神障がい者の地域生活の支援	精神保健事業	障がい者に対する正しい知識の普及を図るためにゲートキーパー養成講座を実施する。	経常的経費	7万円	-	ゲートキーパー養成講座 実施回数16回 参加者283人	・自殺率は低下している（17.5）。
心とからだの健康への関心を高める	出産祝金事業	新生児の保護者に祝金を給付する。 コロナ禍での出産育児の支援として給付金を給付する。	経常的経費 臨時的経費	2,920万円	2,910万円	祝金給付 150人 給付金給付 142人	出生数 161人

施策の評価

一次評価者	役職	保健課長	<p>各種研修会等を実施し、健康への関心を高める取り組みを実施していますが、なかなか効果が見られない状況です。今後とも地道に啓発活動を継続実施して行く必要があります。がん検診の受診率について、目標に近づけるよう受診時期等について検討する必要があると考えます。乳幼児健康診査受診率、虫歯の罹患率については、概ね目標に近い結果が出ており、今後も継続して取り組んでいきます。</p> <p>出産祝金事業については、出産育児の支援として引き続き継続してまいります。</p>
	氏名	森 優	
二次評価者	役職	保健福祉部長	<p>コロナ禍の中で各種検診の実施も難しかったと思います。受診控えもあり今後が心配されますが、アフターコロナを見据えた事業展開を考えていきましょう。また、子どもの食生活は乳幼児期から正しい食生活をするのが求められます。保護者の方の食生活に左右されますが、正しい情報を保護者に届け、子ども達の健やかな成長に寄与していきましょう。今後においても愛育委員、栄養委員の協力を得て、全世代に自分の健康は自分で守るという意識付けができるような講習会や教室を実施しましょう。</p>
	氏名	河井 健治	